

「物語を読んで感じたことや考えたことを伝え合おう～わすれられないおくりもの～」(8時間扱い)

授業者 真田 武 知

1 教材の特徴

学習内容の
系統性

本単元の指導事項は、「C読むこと」領域の思考力、判断力、表現力等「エ 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。」です。

【国語編】小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 pp.110-111.

「エ 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。」は、図1の通り、第1学年及び第2学年のエを受けて、イの指導事項で捉えた内容をもとに、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けながら具体的に思い描き、その世界を豊かに想像することに重点を置いています。登場人物の気持ちは、場面の移り変わりの中で揺れ動いて描かれることが多いので、複数の場面の叙述を結び付けながら、気持ちの変化を見いだして想像していく必要があります。

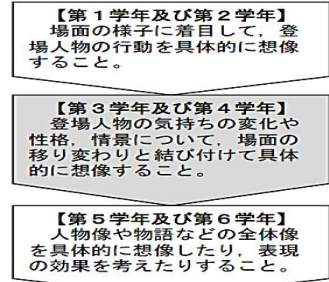


図1 「C読むこと」領域の思考力、判断力、表現力等(エ)の系統

本単元で養う
見方・考え方

本単元では、叙述をもとに、登場人物の気持ちの変化や性格を想像することが中心的な学習となります。「気持ち」とは、喜怒哀楽等の「感情」だけではなく、物事の見方や考え方や考えの内容等の「認識」も表したものです(図2)。

【見方・考え方】
一つの叙述から考えるのではなく、いくつかの叙述を結び付けながら、登場人物の気持ちの変化を想像する。

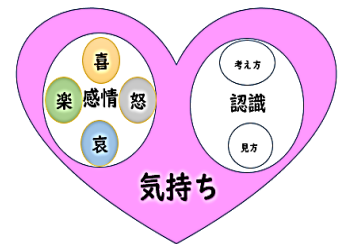


図2 登場人物の気持ちの構造

国語科授業(文
学的な文章)の
課題

小学校国語科の文学的な文章の学習における課題として「教材文での人物の気持ちの読み取りだけに終始してしまい、他の教材文の読み取りに生かすことができる汎用的な力が見えにくい授業が多いこと」が指摘されています¹。また、「教師と児童の評価意識にずれが生じやすく、児童は単元で身に付けるべき指導事項を見通しながら学習することが難しい。単元を振り返る際も、指導事項への意識は薄く、他の学習への転移も起こりにくい」と指摘されています²。

そこで、本実践では、児童が日常生活や他の教材への転移可能な指導事項を身に付けるために、児童が単元の指導事項を意識しながら見通しをもって学習を進めることができるように単元をデザインしたいと考えます。

児童が見通しを
もって学習を進
められるように
する手立て

藤原(2019)³は、単元全体を通じて、どのような資質・能力を育成するのか、学んだ結果がどうだったのかを示した「めあて・ふりかえり表」を児童に提示し、毎時間、自己評価をさせる実践を行いました。実践の結果、めあてのポイントをヒントとして用いたり、更によりよい学習にしようとしたりする事例が見られたことを報告しています。

本実践では、藤原の実践を参考にして、児童が指導事項を常時、意識することができる掲示物(「物語文のないようを読み取るコツ」)を掲示します。また、「ふりかえりシート」を活用し、1単位時間の学習状況を振り返ることができるようにします。

1 遠藤真司(2020)「対話的な学び」を生かして読み深める小学校国語科物語教材の指導方法—中心人物の心情の変化をどう読むか— 早稲田大学教職大学院紀要第12号, pp.61-74.
2 柴崎厚志・山口陽弘・石川克博(2017)「小学校国語科における自己教育力を生かした思考力・判断力・表現力の育成—「見通し」と「振り返り」を内在化した児童を—」群馬大学教育実践研究第34号, pp.157-165.
3 藤原隆博(2019)「小学校国語科における「主体的に学習に取り組む態度」の学習評価についての一考察—「めあて・ふりかえり表」を用いた実践を通じて—」東京学芸大学教職大学院年報第8集, pp.67-78.

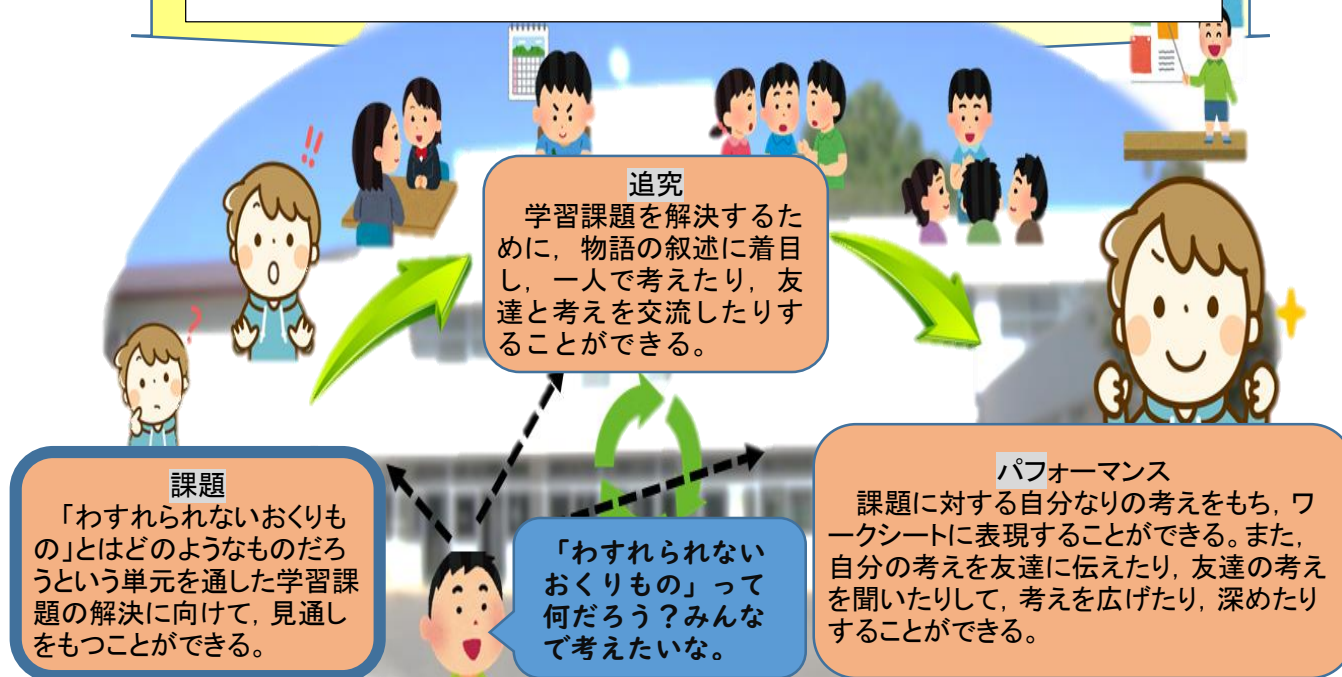
2 目指す子供の姿

	課題設定	課題追究	パフォーマンス
国語科（C読むこと）が 目指す 学びをつくる 子供の ゴールの姿	日常生活の中で様々な文章に出合ったときに、言葉と言葉のつながりや、文と文のつながり等に着目して読み、文章のおもしろさや表現のおもしろさを感じながら、課題を設定することができる。	課題追究の際に、追究方略や追究形態を選択することができる。また、他者と対話し、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。そして、課題追究過程で、追究方略や追究形態を振り返ったり、再選択したりすることができる。	追究結果を、目的意識や相手意識を明確にして、身に付けた国語の知識や技能を生かして表現することができる。また、聞き手や読み手からの評価を受けて、表現を修正したり、次の表現に生かしたりすることができる。
国語科（C読むこと）が 目指す R3. 7月時点 の3年生の 学びをつくる 姿	新しい物語文に出合ったときに、文と文のつながり等に着目して読み、物語のおもしろさや表現のおもしろさを感じながら課題を設定することができる。	課題追究の際に、自分一人で追究したり、他者と協力して追究したりすることができる。また、他者と対話し、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	追究結果を、目的意識や相手意識を明確にして、表現することができる。また、聞き手や読み手からの評価を受けて、表現を修正することができる。

本単元の 目的

自分の学習状況を振り返る活動を通して、他の文学的文章教材への転移可能な読みの力（指導事項）を身に付ける。

本單元における「一人一人の子供が他者とともに自己調整する学び」



教材への思い

わすれられないおくりものって、どんなものだろう？

実現に向けて

次は、モグラの心情の変化について読んでみたい！

自分自身の気付き

課題について、まだ十分に理解できていないから、もう少し読みたいな！

3 本単元の目標と教師の支援

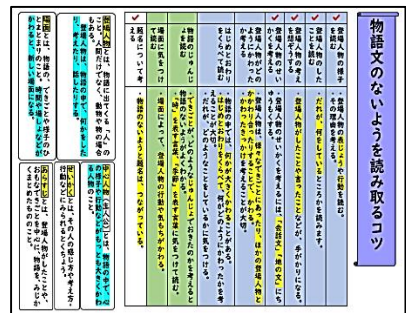
本単元の目標 登場人物の気持ちの変化や性格について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。

本単元の評価規準	知識・技能【知技】	思考・判断・表現【思判表】	主体的に学習に取り組む態度【主】
	・様子や行動, 気持ちや性格を表す語句の量を増し, 語彙を豊かにすることができる。	・登場人物の気持ちの変化や性格について, 場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。	・登場人物の気持ちの変化について場面の移り変わりと結び付けて想像し, 学習課題にそって感じたことや考えたことを, すすんでまとめることができる。

教師の支援

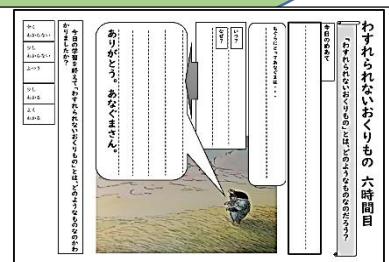
本單元における『子供が目指す姿』の共有デザイン

物語文を読むコツ
(読む視点)を意識
する掲示物の掲示
(自己調整)



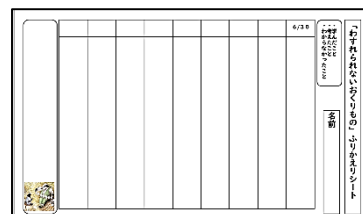
子供と教師と共有

ワークシートの活用
(課題追究・
パフォーマンス)



単元を通した追究課題
の共有
(課題設定・見通し)

ふりかえりシートの活用
(自己調整)



4 単元計画

次 時	学習活動 (○) 【自己調整】
第1次	<p>第1時 (課題設定・学習計画)</p> <p>○「おくりもの」とは何かについて考える。 ○「わすれられないおくりもの」とは何かについて考える。 ○「題名」から内容のイメージを膨らませる。 ○物語の読み聞かせを聞く。 ○「おくりもの」について確認する。 ○感想を書く。 ○今後の学習課題について話し合う。</p> <p>「わすれられないおくりもの」とは、どのようなものなのだろう？</p> <p>【自己調整】単元の見通しをもって学習に取り組もうとしている。</p> <p>○学習課題を解決するには、どのようなことについて読んでいけばよいか話し合う。</p> <p>●登場人物の気持ちや性格。 ●場面の移り変わり。</p> <p>○「ふりかえりシート」に本時のふりかえりを記入する。</p>
	<p>課題 物語に興味をもてるように、題名の「おくりもの」に注目し、「おくりもの」について考える場を設定する。</p> <p>課題 課題意識を高めるために、感想をもとに、単元を通して追究する課題を子供とともに共有する。</p>
第2次	<p>第2時 (課題追究)</p> <p>○前時の学習を振り返る。 ○本時の課題を把握する。</p> <p>物語を読んで、登場人物と場面をたしかめよう。</p> <p>○物語を読み、登場人物を知る。</p> <p>●あなぐま ●もぐら ●きつね ●かえる ●うさぎ</p> <p>○物語を読み、場面の内容を知る。 ・物語を、6つの場面に分ける。 ○次時の課題を確認する。 ○「ふりかえりシート」に本時のふりかえりを記入する。</p>
	<p>課題 主体性を発揮できるように、「わすれられないおくりもの」とは、どのようなものかという問いを解決するには、どのようなことについて読んでいけばよいか問う。</p> <p>課題 学習のつながりを明確にするために、前時に全員で共有した課題と、本時の課題を確認する。</p> <p>追究 課題解決に向かうために、登場人物を問う。 ・あなぐまともぐらが、物語の中心的人物であることをおさえる。</p> <p>追究 課題解決に向かうために、場面の内容を問う。 ・場面の移り変わりを読むには、「時間」「季節」を表す言葉に注目するとよいことをおさえる。</p>
	<p>第3時 (課題追究)</p> <p>○前時の学習を振り返る。 ○本時の課題を把握する。</p> <p>あなぐまともぐらが、どのような人物なのか読みとろう。</p> <p>○あなぐまの人物像を読む。 ・1場面を読みながら、あなぐまの人物像がわかる場所にサイドラインを引く。 ○交流する。</p> <p>【自己調整】他者の意見を聞き、登場人物の人物像について再検討している。</p> <p>○もぐらの人物像を読む。 ・3場面を読みながら、もぐらの人物像がわかる場所にサイドラインを引く。 ○「ふりかえりシート」に本時のふりかえりを記入する。</p> <p>【自己調整】現段階での課題達成状況を確認し、今後の見通しをもとうとしている。</p>
	<p>課題 前時に全員で確認した課題と、本時の課題を確認する。</p> <p>追究 主体性を発揮できるように、あなぐまの人物像を読み取るには、何場面を読めばよいか問う。 ・あなぐまの人物像がわかる場所にサイドラインを引くように指示する。</p> <p>課題 今後の学習の見通しをもつことができるように、現段階での課題達成状況を問う。</p>

第3時終了後に、登場人物の人物像の理解を深めるために『アナグマさんはごきげんななめ』（ハーウィン＝オラム 文、スーザン＝バーレイ 絵、小川仁央 訳、評論社）を読み聞かせする。

第2次	第4時 (課題追究)	<p>○前時の学習を振り返る。 ○本時の課題を把握する。</p> <p>もぐらの気持ちが大きく変わった理由を読み取ろう。</p> <p>○あなぐまの死によって大きな悲しみに包まれたもぐらの気持ちを読み取る。 ○あなぐまの死を受け入れ、悲しみを乗り越えたもぐらの気持ちを読み取る。 ○もぐらの気持ちが大きく変わった理由を考える。 ○次時の課題を確認する。 ○「ふりかえりシート」に本時のふりかえりを記入する。</p>	<p>課題 前時に全員で確認した課題と、本時の課題を確認する。</p> <p>追究 課題解決に向かうために、もぐらの大きな悲しみが消えた理由を問う。 ・登場人物の気持ちと場面の移り変わりが関連していることを確認する。</p> <p>パフ 他者の考えとの共通点や相違点に気付き、考えを広げたり深めたりすることができるよう交流場面を設定する。</p>
	第5時 (課題追究・学習計画)	<p>○前時の学習を振り返る。 ○本時の課題を把握する。</p> <p>「わすれられないおくりもの」とは、どのようなものなのか考えよう。</p> <p>○だれからだれへの「おくりもの」なのか確認する。 ○あなぐまから他の登場人物への「おくりもの」を読む。 ○「わすれられないおくりもの」とは、どのようなものなのか、考えをワークシートに書く。 ○「おくりもの」が、どうしてわすれられないのか考える。</p> <p>【自己調整】新たな課題を理解し、今後の学習の見通しをもって学習に取り組もうとしている。</p> <p>○本時の学習を振り返り、「ふりかえりシート」に記入する。</p>	<p>課題 前時に全員で確認した課題と、本時の課題を確認する。</p> <p>追究 これまでの学習をふまえて、「わすれられないおくりもの」とはどのようなものか問う。</p> <p>課題 学習課題を解決するためには他の視点で読む必要があることに気付けるよう、「わすれられないおくりもの」がどのようなものか問う。また、これからどのような視点で読めばよいか問う。</p>
	第6時 (課題追究)	<p>○前時の学習を振り返る。 ○本時の課題を把握する。</p> <p>6場面のもぐらの気持ちを考えよう。</p> <p>○もぐらにとってあなぐまはどんな存在か、なぜお礼を言いたくなったのか考える。 ○6場面、あなぐまにお礼を言っているときのもぐらの気持ちを考える。 ○次時の課題を確認する。 ○「ふりかえりシート」に本時のふりかえりを記入する。</p>	<p>課題 今後の課題を確認する。</p> <p>課題 前時に全員で確認した課題と、本時の課題を確認する。</p> <p>追究 一人で、これまで読み取ってきたことを基に、想像するよう促す。</p> <p>課題 次時の見通しをもてるように、改めて「わすれられないおくりもの」について考えることを児童と共有する。</p>
<p>第6時終了後、あなぐまともぐらの関係性の理解を深めるために『アナグマのモチよりパーティー』（ハーウィン＝オラム 文、スーザン＝バーレイ 絵、小川仁央 訳、評論社）を読み聞かせする。</p>			
第3次	第7時	<p>○前時の学習を振り返る。 ○本時の課題を把握する。</p> <p>「わすれられないおくりもの」とは、どのようなものなのか考えよう。</p> <p>【自己調整】これまでに読み取ってきたこと振り返り、課題について考えている。</p>	<p>課題 学習のつながりを明確にするために、前時に全員で確認した課題と、本時の課題を確認する。</p>
	第8時	<p>○前時の学習を振り返る。 ○シリーズ図書を読む。 ○感想を交流する。</p>	<p>パフ 他者の考えとの共通点や相違点に気付き、考えを広げたり深めたりすることができるよう交流場面を設定する。</p>

5. 本時案 (5/8)

本時の目標

叙述をもとに、あなぐまが残していったもの（おくりもの）の価値について想像することができる。

学習活動 (○) と子供の発言

教師の支援 (課題, 追究, パフ) と評価 (◇) [自己調整]

○前時の学習を振り返る。

☆前時の学習について、子供に問いかけ、簡単に確認する。

○本時の課題を把握する。

課題 本時の課題を確認する。

「わすれられないおくりもの」とは、どのようなものなのか考えよう。

○「わすれられないおくりもの」とは、どのようなものなのか、考えをワークシートに書く。

☆これまでの学習をふまえて、「わすれられないおくりもの」とはどのようなものなのか、自分の考えを書くよう指示する。

○だれからだれへの「おくりもの」なのか考える。

☆「おくりもの」は、だれからだれへ贈られたのか問う。子供の発言を受けて、黒板に登場人物の挿絵を貼る。

あなぐま から 森の仲間たち。

○あなぐまから他の登場人物への「おくりもの」の内容を読み取り、ワークシートにまとめる。

・あなぐまが他の登場人物に贈った「おくりもの」の内容について問う。

追究 課題について、自分一人で考えるよう指示する。

もぐら・・・はさみの使い方
 きつね・・・ネクタイのむすび方
 かえる・・・スケートのすべり方
 うさぎ・・・りょうりのつくり方

【黒板】

もぐら
きつね
かえる
うさぎ

← あなぐま

○「わすれられないおくりもの」とは、どのようなものなのか、考えをワークシートに書く。

パフ 他者と考えを交流するよう指示し、自分の考えを見つめなおして、考えを広げたり深めたりするよう促す。

○考えを交流する。

◇ 叙述をもとに、あなぐまが残していったもの（おくりもの）の価値について想像することができる。[思判表] (発言・ワークシート)

わたしは、「ちえやくふう」だと思う。なぜなら、それで助け合えたから。

ぼくは、「あなぐまとの思い出」だと思う。それで、みんなの悲しみが消えたから。

ぼくは、残るものだから「手紙」だと思う。

わたしは、あなぐまとすごした楽しい時間だと思う。

「C」の児童には、あなぐまからの「おくりもの」のおかげで、森のみんなはどうなったのか問い、価値を想像できるように促す。

【評価】

Ⓐ「おくりもの」は、ちえやくふう、思い出で、「おくりもの」のおかげで、みんなが助け合うことができる。また、これからも助け合って生きていくことができる。

Ⓑ「おくりもの」は、ちえやくふう、思い出で、「おくりもの」のおかげで、みんなが助け合うことができる。

Ⓒ「おくりもの」は、ちえやくふう、思い出である。（「おくりもの」の価値についての記述がない）

○「おくりもの」が、どうしてわすれられないのか考える。

課題 現段階で、「わすれられないおくりもの」がどのようなものか、概ね理解されたが、十分ではないことを確認し、何がわかればよいのか問う。

○全体で話し合う。

○今後の学習の見通しをもつ。

まだ6場面を読んでいないから、読むと「わすれられないおくりもの」がもっとかわると思う。

1場面と6場面を比べて読むと、あなぐまともぐらについてももっとわかると思う。

・次回、6場面（もぐらがあなぐまにお礼を言う場面）を読むことを児童と共通理解する。また、あなぐまとの関係性についても読むことを確認する。

○本時の学習を振り返り、「ふりかえりシート」に記入する。

課題 本時の学習を振り返り、次時の学習の見通しをもつことができるようにする。

[自己調整] 新たな課題を理解し、今後の学習の見通しをもって学習に取り組もうとしている。